



かづる

BEING KAZUE

できるんよ、やろうと思えば

監督：熊谷博子

ナレーション：斉藤とも子

撮影：中島広城 録音：奥井義哉 助監督：土井かやの
編集：大橋富代 映像技術：柳生俊一 整音：小長谷啓太
音楽：黒田京子 宣伝美術：安倍大智
配給協力：ポレポレ東中野 宣伝：きろくびと

協力：国立療養所 長島愛生園

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会
公益財団法人 笹川保健財団

製作・配給：オフィス熊谷

2023年 | 日本 | 119分 | DCP | ドキュメンタリー

©Office Kumagai 2023

10歳からハンセン病療養所で生きる

希望やうめあとの、
道。長谷川。

beingkazue.com

OFFICE
KUMAGAI

「私、みんな受けとめて、逃げなかつた。」



瀬戸内海にある国立ハンセン病療養所、長島愛生園。

宮崎かづゑさんは10歳で入所してから約80年、ずっとこの島で生きてきた。病気の影響で手の指や足を切断、視力もほとんど残っていない。それでも、買い物や料理など、周囲の手を借りながらも自分で行う。

「本当のらい患者の感情、飾っていない患者生活を残したいんです。らいだけに負けてなんかないよ」と力強く語るかづゑさん。患者同士のいじめに遭い、つらかった子ども時代。家族の愛情と、たくさんの愛読書が、絶望の淵から引き上げてくれた。

そして夫の孝行さんと出会い、海沿いの夫婦寮で自然とともに暮らしてきた。

78歳のときにパソコンを覚え、84歳になって初の著作となる「長い道」（みすず書房）を出版。類まれな表現力で日常を瑞々しく綴り、版を重ねている。

90歳も半ばになったかづゑさんは言う、「できるんよ、やろうと思えば。」

かづゑさんの人生に伴走した8年間

「三池 終わらない炭鉱の物語」や「作兵衛さんと日本を掘る」など長く炭鉱に関わる人々を追い続けてきた熊谷博子監督があらたに出会ったのは、ハンセン病回復者の宮崎かづゑさんだった。

撮影初日、かづゑさんは「いい格好しては本物は出ません。だからお風呂も掘ってね」と監督とスタッフに話しかけた。そこまでさらけだしてくれる彼女の覚悟を受け止め、文字通り裸のままのかづゑさんを撮らせてもらう日々が始まった。そこから8年もの歳月、長島愛生園に通うこととなる。厳しい人生をたくましく生き抜いてきた彼女に寄り添うことで見えてきたものとは――

ハンセン病 らい菌による感染症で、かつてはらい瘡と呼ばれた。日本では「らい予防法」（1931～1996年）により、すべての患者を療養所に入れる「隔離政策」が取られた。感染しても、実際に発症するのには発症状態が悪かったり免疫が十分なかった場合のみだ。発病すると皮膚や末梢神経が傷まれ、後遺症が残ることもある。1943年に特效薬が開発され、現在は治る病気となっている。

